



管理課より

「教職員人事評価制度」今後の流れについて

12月を迎え、「教職員の能力開発及び人材育成」と「学校組織の活性化」を目的として行われている教職員の人事評価制度も、まとめの時期が近づいてきました。今後の流れを確認するとともに、今年度の成果と課題を検証することで、次年度につなげていきましょう。



(1) 最終申告

①各シートの記入(1月~2月)

中間申告と同様に、2つのシート(目標申告シート、職務能力発揮シート)に記入します。最終申告では、各シートの左下にある【改善点・次年度の目標等】も記入します。

②最終面談(2月末まで)

最終面談は全員が実施対象です。今年度の成果と今後の課題について、管理職と認識を共有することで資質能力の向上及び学校組織の活性化を図り、学校教育の充実につなげています。

(2) 評価の開示・苦情の申出

①評価結果の開示について

評価結果の開示は、「希望者」及び「業績総合評価及び能力総合評価にC・Dがある者」に対して、下記の日程で行われます。

②苦情の申出について

「業績総合評価」、「能力総合評価」の結果について、第2次評価者(校長)から説明を受け、納得がいかない場合は、再説明を受けることができます。それでも納得がいかない場合は、市町村(組合)教育委員会に苦情の申出を行うことができます。苦情については、申出者及び評価者から事情を聴くなどしたのち、必要に応じて「苦情審査委員会」で審査を行います。

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|--------|---|--------|---|--------|---|------|---|---------|---|---------|
| 評価 | ⇒ | 開示 | ⇒ | 再説明 | ⇒ | 苦情申出 | ⇒ | 事情聴取 | ⇒ | 苦情審査委員会 | ⇒ | 審査結果の通知 |
| 3/1 | | 3/8~17 | | 3/8~17 | | 3/8~20 | | 3/8~ | | 3/21~ | | |

(※苦情申出、事情聴取は県立学校の日程)

「業務改善DXアドバイザー配置事業」の活用事例について

業務改善DXアドバイザー配置事業とは、千葉県教育委員会が、今年度から取り組んでいるもので、校務DXを推進するための専門人材を各学校に派遣する事業です。

1 目的：校務のDX化による効率化や業務改善の提案等を行う人材を学校に配置し、学校における働き方改革を促進するため。

2 派遣対象市町(令和6年度)

・東金市 ・長南町 ・大多喜町 ・御宿町

3 活用事例(活用内容→効果)

①学校行事の申込フォームの作成

→申込の集約に係る手間が減り、文書の発出から収集データの活用までの時間が短縮された。

②通信速度や処理速度の遅さの原因等、校内ネット環境の確認・調査

→原因がわかり、ネット環境の不具合を市町村教育委員会へ報告し、環境整備への参考とした。

③Teams、Forms及びLINEWORKS等の活用研修の実施、会計整理用や職員の出退勤に関するエクセルシートの作成

→職員の情報共有手段としてTeams活用推進、会計処理や調査の報告等に係る時間短縮、紙代節約に繋がった。

④効果的な文書の保存方法(校務フォルダの整理の仕方等)

→容易な校務情報の検索、情報共有や引継の正確さ、時間の効率化、短縮に繋がった。





自立活動は、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の場において、特別に設けられた指導領域です。

調和的発達

<目標>

個々の児童又は生徒が**自立を目指し**、障害による**学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服**するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって**心身の調和的発達の基盤**を培う。
(小学部・中学部学習指導要領第7章第1)

各教科や道徳科等の学習

全ての児童生徒に指導

調和的発達の基盤

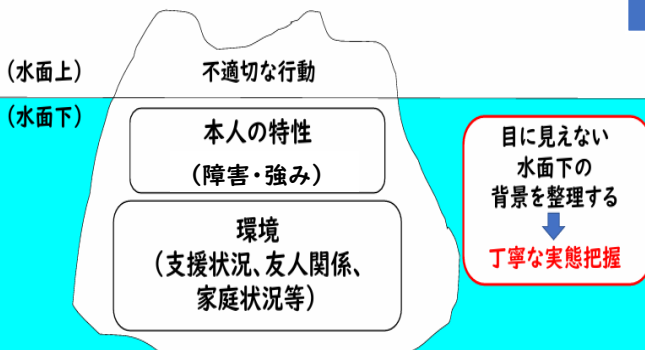
一人一人に応じた指導

自立活動

→自立活動の目標は三つの柱では整理されていません。自立活動の指導は、各教科等での学びを成立させ、各教科等において育まれる資質・能力を**支える役割**です。

<自立活動の考え方>

冰山モデル



<目に見える実態>

かんしゃく
離席、癩癩、他害、自傷、ノートをとらない等



**自立活動で
アプローチ**

<目に見えない実態>

見通しがもてず不安、感覚の過敏、言葉で気持ちを伝えられない、動きのぎこちなさ、注意がそれやすい、情報を記憶しておくことが苦手等

(図:千葉県総合教育センター 特別支援教育基礎コンテンツより)

冰山は、水面下に大部分が隠れています。この**隠れた部分が、「不適切な行動」の要因となる部分**です。本人の特性(障害・強み)や環境(支援状況、友人関係、家庭状況等)など様々な背景や要因が関係していることを捉えることが大切です。この冰山モデルのように隠れている要因について、一人一人丁寧に実態把握をして、知ることが大切になります。「**不適切な行動**」には、「**きっかけ**」や「**原因**」があります。その行動が起きた原因や、背景に目を向けて行動を理解して支援していく必要があります。

【自立活動フローシートの活用のすすめ】

自立活動の視点で、**実態把握や目標、内容をどのように設定すれば良いか**参考になります。千葉県総合教育センターのHP「調査・研究」→「調査・研究報告」→「特別支援教育」→「平成30年から令和元年度」の順に検索すると資料があります。御活用ください。

【チーてれスタディーネット】

- 見え方等の困難さに対する指導・支援(視覚障害)
- 聞こえ等の困難さに対する指導・支援(聴覚障害)
- 日常生活動作等の困難さに対する指導・支援(肢体不自由)
- 話し言葉によるコミュニケーション等の困難さに対する指導・支援(言語障害)
- 感情のコントロールや認知機能等の困難さに対する指導・支援(発達障害)
- 身体や心の調子等の困難さに対する指導・支援(病弱・身体虚弱)

↓動画はこちらから↓



R3自立活動
Ver.1



R4自立活動
Ver.2